

正倉院染織品の研究

尾形 充彦 著

2013年10月刊行

B5判・416頁／定価 21,000円(税込) ISBN978-4-7842-1707-6

宮内庁正倉院事務所の研究職技官として、35年にわたり、正倉院染織品を熟覧調査・研究してきた著者による、研究成果の集大成。

内容目次

【1 正倉院の染織品について】

- 第1章 聖武天皇の時代の正倉院の染織品
- 第2章 正倉院の染織
- 第3章 正倉院裂の研究

【2 正倉院の染織品の研究】

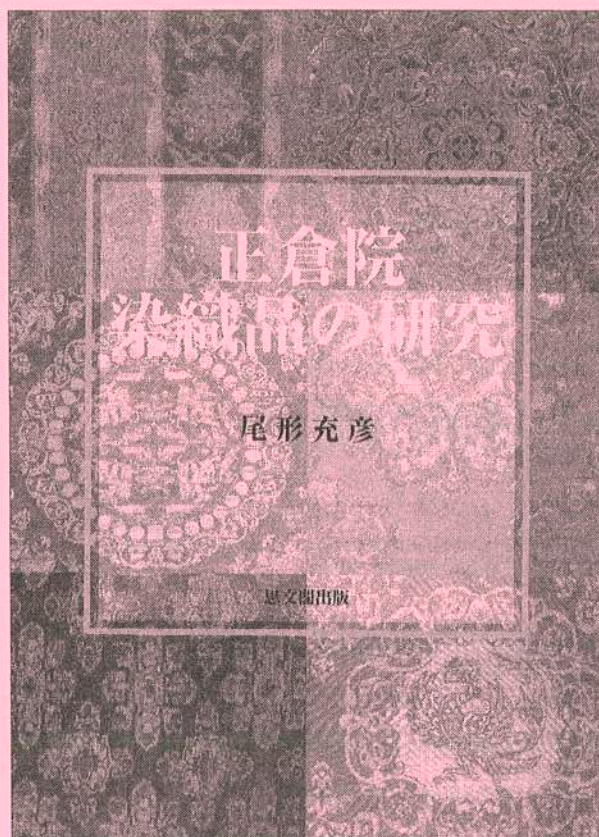
- 第1章 花唐草獅子文綾について
- 第2章 犀円文錦の研究
- 第3章 正倉院の大幡
- 第4章 裂地としてみた正倉院の調絛
- 第5章 古代織物の織技の研究について
- 第6章 正倉院の花氈と文様

【3 正倉院の染織品の保存と技術】

- 第1章 正倉院の染織品の整理
- 第2章 正倉院裂の復元模造
- 第3章 正倉院の絹織物の保存科学
- 第4章 正倉院の染め色

【4 正倉院以外の染織品の調査・研究】

- 第1章 吐魯番県阿斯塔那古墓出土の絹織物
- 第2章 藤ノ木古墳出土の組紐について
- 第3章 鶴巻鶴一博士のロウケツ染め



おがた・あつひこ... 1954年3月、京都市生まれ。1979年3月、京都工芸繊維大学大学院繊維学研究科修士課程修了。同年10月、宮内庁正倉院事務所採用、研究職技官として染織品整理担当。1994年3月、保存課整理室長として現在に至る。これまで一貫して正倉院の染織品の整理・調査・研究に従事。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	正倉院染織品の研究		本体20,000円(税別) ISBN978-4-7842-1707-6	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				書店番線印

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

▶46判・438頁／定価 3,150円

ISBN978-4-7842-1439-6

正倉院展六十回のあゆみ

奈良国立博物館編集・発行

終戦後すぐの昭和21年に奈良帝室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、今年で60回を数え、秋の風物詩となっている正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して巻末に付す。

▶A4判・286頁／定価 3,150円

ISBN978-4-7842-1440-2

※上村六郎染色著作集 [全6巻]

上村六郎著

日本における染色学界の大先達である著者の永年にわたる研究の集大成。科学という専門を基に、古い文献の渉猟、日本はもちろん中国・インド・中近東・ペルシャ・インドネシア等の広汎な研究は世界的にも評価されているものである。現代染織家にとっての必須の書。

▶A5判・平均500頁／揃定価 40,425円

※花洛のモード きものの時代

京都国立博物館編

装いの美・華と粋の世界―桃山から江戸時代を通じて服飾の中心となった「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・胴服・羽織・具足下着・振袖・帷子などから簪・簪・髪形、さらには肖像画・浴中浴外図・屏風などに描かれたモードも含めて全225点(オールカラー)を収録。「今様御いなかた」(翻刻)と「御用雛形帳」の調査一覧表も併載。

▶A4判・550頁／定価 26,250円

ISBN4-7842-1072-5

※壬生狂言古衣裳

松浦俊海監修／野上俊子他編

壬生寺創建一千年記念出版。重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳は、死者の生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。染色資料にあって、墨書年から制作年の下限を推定できる、きわめて貴重な存在。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。

▶A4判・300頁／定価 60,900円

ISBN4-7842-0721-X

※仏教考古学論攷 [全6巻]

石田茂著作集

正倉院御物の調査、朝鮮扶余軍守里庵寺の発掘、法隆寺若草伽藍の発掘をはじめ数多い諸寺の永年にわたる現地調査を土台に、今日の仏教考古学の大系を樹立した石田博士の半世紀にわたる学問上の足跡を一同に収める。【第4巻は品切】

▶A5判・平均350頁／揃定価 24,150円

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院御物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

▶A5判・380頁／定価 6,615円

ISBN4-7842-0482-2

文学のなかの考古学

門田誠一著

佛教大学臨陵文化叢書19

小説や古典芸能などに描写された考古学的要素や、それらの背景となった歴史ある文化背景について、考古学的に接近を試みる。小説や随筆、詩、俳句、川柳、そして古典のようないわゆる文学だけでなく、古典芸能や民話、民謡なども広義の文学として取り扱い、文学と考古学の間に生まれる新たな可能性を提示する。図版多数。

▶46判・308頁／定価 2,415円

ISBN978-4-7842-1430-3

正倉院宝物に学ぶ2

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

▶46判・348頁／定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1658-1

※正倉院文書の国語学的研究

桑原祐子著

正倉院文書は、原本が存在し、編纂物ではなく、多種多様な内容を持ち、同類の文書・帳簿が多量にあり、筆録者と年月日が特定できるなど、他の古代の国語資料には求められない特質をそなえている。その具体的な文字の形態と語の意義の関係を明らかにし、新語の発生・ゆれ・定着の過程を実証し、語の変遷を考察した意欲作。

▶A5判・300頁／定価 5,670円

ISBN4-7842-1275-2

※布がつくる社会関係

金谷美和著

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌

染色業者カトリートと、カトリートの生産する布について民族誌的記述を行うことで、布の生産で構築される社会関係と、布の使用で構築される社会関係について明らかにする。絞り染め布のもつ物質性への注目を喚起することによって、布を視点として社会を分析するという文化人類学的研究の新たな可能性を拓くことを目指した意欲作。

▶A5判・330頁／定価 6,510円

ISBN978-4-7842-1341-2

着衣する身体と女性の周縁化

武田佐知子編

着衣という共通の素材を通して、さまざまな社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、衣服と身体表象について解き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。

▶A5判・500頁／定価 6,090円

ISBN978-4-7842-1616-1

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介する。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34編。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。

▶A4判・150頁／定価 2,940円

ISBN4-7842-1087-3

仏教東漸 祇園精舎から飛鳥まで

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

創立350周年を迎えた龍谷大学によるシンポジウムの成果。

【内容】西域―信仰の通った道―大谷光瑞師と近代仏教学／インド・祇園精舎の仏教遺跡／中国敦煌学の現段階／韓国毘盧遮那仏像の成立とその図像的象徴／塑像技法の伝来／李柏文書／仏教徒と異宗教との遭遇／舍利信仰のひろがり／絵画作品の諸問題

▶B5判・264頁／定価 5,670円

ISBN4-7842-0699-X

高句麗壁画古墳と東アジア

門田誠一著

高句麗壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察する。高句麗社会と文化の一端を復元し、古代のみならず、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす力作。

▶A5判・448頁／定価 9,030円

ISBN978-4-7842-1546-1

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容

堀内明博著

永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。

▶B5判・514頁／定価 15,750円

ISBN978-4-7842-1457-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。